

荒川区と連携して 福祉・介護系新製品開発プロジェクトを展開します

首都大学東京健康福祉学部は、荒川区と連携して、下記のとおり、福祉・介護系新製品開発プロジェクトを展開することとしました。

1 プロジェクトの概要

荒川区にキャンパスを置く首都大学東京健康福祉学部と荒川区が連携し、本学部の有する知識と荒川区内に集積する生活関連企業、技術、人材等の地域資源を有効に活用することにより、区内企業による福祉・介護系新製品の開発、製造及び販売を促進することを目指す産学公連携プロジェクトです。荒川区が実施する荒川版クラスター形成に向けた取組みの先導的プロジェクトとして位置づけられています。

2 本学部の役割

本学部は、地元荒川区との連携を図り、区民の健康増進や地域医療という保健福祉面のみならず、産業技術の面においても研究成果の情報提供など連携の強化を進めていくこととしています。

今回のプロジェクトにおいては、本学部における高齢者への地域支援に関する研究を、具体的な地域貢献に活かすため、本学部はこのプロジェクトを展開していくこととし、具体的には次の事業を行います。

<平成18年度～>

- 高齢者の健康状態に合わせた新しい福祉・介護系製品を開発するための基礎資料を得るため、荒川区と連携して、荒川区内高齢者を対象に福祉・介護系製品に対するニーズ調査を実施する。
- ニーズ調査に基づき、荒川区内企業等と試作品等の共同開発を行う。

<平成19年度～>

- 福祉・介護系製品の製品化を支援するため、荒川区内企業等に対して、ニーズ調査に基づき得た知見を提供する。

3 プロジェクト担当

首都大学東京健康福祉学部 : 繁田雅弘（しげたまさひろ）学部長
作業療法学科 菊池恵美子（きくちえみこ）教授、
蘭牟田洋美（いむたひろみ）准教授、
橋本美芽（はしもとみめ）准教授

荒川区 : 産業経済部経営支援課

4 本学部と荒川区の産業振興との関係

荒川区では、平成17年8月に産業振興懇談会（座長：岩下誠宏株式会社 ADEKA 名誉会長）を設置し、荒川区の地域実態や産業構造に即した産業クラスターの形成に向けた検討を行っている。区内に立地する本学部では、繁田雅弘学部長が本懇談会の委員として主に産学公連携推進の視点から参画している。

※ 産業クラスターとは：企業・関連産業、大学・研究機関、産業支援機関等から構成されるネットワーク。